岡崎市

やはぎじんじゃれいたいさい
矢作神社例大祭

祭礼日	10月2日
祭礼場所	矢作神社

歴史

山車は2輌あり、矢作二区の東中之切山車は文化11年（1814）、矢作三区の西中乃切山車は天保10年（1839）に建造されたとみられます。東中之切山車は10月2日が土曜日・日曜日になった年に曳き廻され、2日が土曜日の場合は当日、日曜日の場合は前日1日に実施されます。西中乃切山車は10月第1土曜日に隔年で曳き廻されます。昭和43年（1968）に西中乃切山車、昭和48年に東中之切山車が市の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

山車の展示や曳き廻し、お囃子、子供の踊りなどが行われます。山車の曳き廻しは数年に1回行われ、神社前の坂道を駆け上がり、街角では前輪または後輪だけで回転する立切の技を見せます。山車が停止しているときは子供たちの舞い踊る姿が華を添え、山車の進行具合によって緩急自在の曲を奏でるお囃子の音が響きます。夕刻、山車蔵の前に戻った山車の提灯に灯りが灯ります。

岡崎市

しんめいぐうれいたいさい
神明宮例大祭【神明さん】

祭礼日	5月第2日曜日及び前日土曜日
祭礼場所	神明宮

歴史

神明宮例大祭は江戸時代中期から続く祭礼です。岡崎三大祭りの一つとして挙げられています。収穫を祈念する祭で渡御行列の花笠梵天には五穀豊穣、国家安泰等の文字が書かれています。町の御旅所では弥栄と安寧を祈願してお祓いが行われます。創建は平安時代中期（1000年頃）疫病が起きて村々に難儀が及び、神明を勧請しました。山車は、現在残っている文献から江戸時代には曳き廻されていたことが判明しています。

内容・見どころ

山車は8輌あり、山車の曳き廻しやお囃子、乙女の舞奉納などが行われます。見どころは御神輿渡御と宵祭り山車揃え・山車町曳き・宮入りです。山車町曳きでは各町独自のお囃子を奏でながら氏子町内を曳き廻し、辻々で山車から舞台が引き出されて披露される踊りで祭はいっそう華やぎます。祭のクライマックスは山車宮入りです。8輌の山車の提灯が一斉に点灯し、お囃子の音を響かせながら氏子各町を巡り、そろって神明宮に向かいます。

岡崎市

すがじんじゃ はるのたいさい
須賀神社 春の大祭
【蟻子祭り】

祭礼日	4月第2日曜日
祭礼場所	須賀神社

歴史

江戸時代末期から行われている祭礼で、須賀神社の御祭神が同じ町内にある神明宮の御祭神を、山車とお囃子でにぎやかに訪問することが目的と言われています。昭和57年（1982）に、「須賀神社祭礼山車及び祭りばやし」として市の無形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

山車は5輌あり、須賀神社から神明宮への神輿渡御に合わせて山車が組ごとに曳き廻されるとともに、各組で伝承されるお囃子が山車の上で奏でられます。神明宮では、御照覧囃子が奉納されます。また、須賀神社への宮入時には景気の良いお囃子の音にのせて山車が須賀神社前の坂を一気に駆け上ります。

岡崎市

すごうまつり ほこぶねしんじ ほうのうはなび
菅生祭 鉾船神事 奉納花火

祭礼日	8月第1土曜日
祭礼場所	菅生神社及び乙川河川敷

歴史

菅生祭は、厄災の除去を祈願した祭礼で、宵宮祭が7月19日、例大祭が7月20日に行われます。菅生川（乙川）に提灯を付けた鉾船を浮かべ、花火を奉納する鉾船神事は江戸時代後期より受け継がれており、近年は岡崎観光夏祭り花火大会と共催し8月第1土曜日に行われます。

内容・見どころ

山車は鉾船（車楽船）が2艘あり、練り込み行列や船上花火奉納などが行われます。練り込み行列では若衆が長持ち唄を歌いながら神社まで練り歩きます。神前での手筒花火の奉納が終わると、氏子は鉾船に乗船し、船上では三河花火の奉納が行われます。手筒花火・大筒花火・乱玉花火・金魚花火の奉納は江戸時代より人々を魅了してきました。

岡崎市

もとじゅくちょうなつまつり
本宿町夏まつり【祇園祭、天王祭】

祭礼日	7月最終日曜日
祭礼場所	津島社

歴史

古くはちょうちん祭などと呼ばれ、神輿と各字の提灯が行列を作って町内を練り歩いたと言われます。大正中期から昭和初期になると、飾り付けをした荷車に子供が乗って、笛や太鼓を鳴らすようになり、花火や「やぐら」を担いで練り歩くようになりました。山車は昭和10年（1935）に栄町が最初に造り、戦後になってから、西町、中町、東町の順に造られました。行列のお練りによって疫病を払うとされています。

内容・見どころ

山車は4輌あり旧東海道を練り歩きます。山車の曳き廻しやお囃子、踊り、手筒花火の奉納などが行われ、各町5～10個の梵天を持ち山車の前を歩きます。また、子供たちは円になって手踊りを踊ります。

碧南市

おおはまなかくさいれい
大浜中区祭礼

祭礼日	10月第3土曜日・日曜日
祭礼場所	大浜稲荷社

歴史

天明8年（1788）に山車（現在の中之切車）を半田の亀崎より購入し、この年より山車まつりが始まりました。山車は「中之切車」「浦島車」の2輌あり、中之切車、三番叟人形、乱杭渡り人形が、昭和59年（1984）に市の有形民俗文化財に指定されました。また、同年には、お囃子と三番叟が市の無形民俗文化財に指定されています。

内容・見どころ

土曜日が宵祭り、日曜日が本祭りになり、山車の曳き廻しやからくり人形の奉納、餅投げなどが行われます。中之切車では三番叟人形と乱杭渡り人形による演技が披露されます。大浜中区の三番叟人形は激しい踊りが特徴で、山車の前棚から飛び出すほどの勢いで演じられます。また、浦島車では浦島人形と乙姫人形による浦島伝説の再現を見ることができます。

碧南市

つるがさきくさいれい
鶴ヶ崎区祭礼
【鶴ヶ崎の祭り】

祭礼日	10月第2土曜日・日曜日
祭礼場所	山神社・浅間神社

歴史

元治元年（1864）に山車（現在の玉車）を半田の亀崎東組より譲り受けました。その後、山車の老朽化、戦争、台風などで山車の巡行が中止となっていましたが、昭和51年（1976）に山車まつりが復活して現在に至ります。平成2年（1990）に、山車が市の有形民俗文化財に指定されました。また、平成16年には、お囃子と三番叟が市の無形民俗文化財に指定されています。

内容・見どころ

土曜日が宵祭り、日曜日が本祭りになり、山車の曳き廻しや三番叟の披露、餅投げなどが行われます。鶴ヶ崎区には山神社と浅間神社があり、例年交互に宵祭り・本祭りを行います。山車は「玉車」の1輌あり、造花や提灯で飾った「チャラボコ屋台」も一緒に巡行します。

刈谷市

おがきえしんめいじんじゃたいさい
小垣江神明神社大祭
【小垣江山車祭】

祭礼日	10月16日（大祭）以降最初の日曜日
祭礼場所	小垣江神明神社

歴史

小垣江地区の山車まつりで、春の金刀比羅社大祭にも同じ山車が曳かれます。山車は天保15年（1844）に史料で確認でき、弘化3年（1846）には5輌が参加しましたが、明治6年（1873）頃に山車の参加はなくなったと思われます。このうち1輌は明治10年に刈谷町の正木新道に売却され市原稲荷神社の祭礼に使用されましたが、平成6年（1994）に小垣江に戻り、平成11年に復活しました。平成10年に、山車が市の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

山車は1輌あり、山車の曳き廻しやお囃子、おまんと（駆け馬）の奉納などが行われます。おまんとの奉納では、円形の馬場の中で駆ける馬に、若い衆と呼ばれる男たちが跳び付いて人馬一体となって走ります。また、祭礼日前日の土曜日には宵山祭も実施しています。

刈谷市

金刀比羅社大祭（ことひらしゃたいさい）【小垣江山車祭】

祭礼日	4月10日（大祭）以降最初の日曜日
祭礼場所	金刀比羅社

歴史

小垣江地区の山車まつりで、秋の小垣江神明神社大祭にも同じ山車が曳かれます。平成10年（1998）に、山車が市の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

山車は1輌あり、山車の曳き廻しやお囃子などが行われます。また、祭礼日前日の土曜日には宵山祭も実施しています。

刈谷市

刈谷山車祭（かりやだしまつり）

祭礼日	5月5日（原則隔年）
祭礼場所	市原稲荷神社

歴史

貞享4年（1687）には市原稲荷神社の祭礼に山車が参加したことが確認され、最大で6輌の山車が参加していました。祭礼には神幸祭（神輿渡御祭）があり、神輿を護衛するための大名行列が行われます。現在は2輌の山車が大名行列開催と併せて山車祭として参加しています。平成9年（1997）に新町の山車、平成12年に肴町の山車が市の有形民俗文化財に指定されました。また、山車囃子も平成27年に市の無形民俗文化財に指定されています。

内容・見どころ

大名行列では、10万石の格式を持つ秋田出来守という架空の殿様や徳川家康の生母於大の方などの行列と、2輌の山車が練り歩きます。大名行列の中で繰り広げられる「奴のねり」（市指定無形民俗文化財）も見どころです。また、山車に付随する形で山車囃子が奏でられます。

豊田市

挙母祭り
ころもまつり

祭礼日	10月第3土曜日・日曜日
祭礼場所	挙母神社

歴史

挙母神社の大祭で祭の記録は寛文4年（1664）まで遡りますが、現在のような山車を中心とした祭として完成したのは江戸時代後期から明治時代初期と考えられています。この時代には武士も町民とともに山車を曳き、城中に山車を曳き込んで藩主に上覧したと記されており、藩主や武士と町民が一体となって祭を行ってきた様子がうかがえます。昭和39年（1964）に山車8輌が県の有形民俗文化財に指定され、昭和45年に祭囃子が市の無形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

祭は2日間あり初日を試楽、2日目を本楽といいます。試楽は町内曳き、下町五町曳き、樹木三町曳きを行います。本楽では一番の見どころである挙母神社での曳き込みと曳き出しが行われます。号砲の後、各町代表者の合図にて、1輌ずつ境内へ駆け込んでいきます。曳き出しでは 勢いよく大楠前を曲がり、境内を後にしていきます。その後「泣き別れ」では、花車の町から無事催行の挨拶と、次年花車の町への申し送りがされます。

豊田市

宮前町祭礼
みやまえちょうさいれい

祭礼日	10月第3土曜日・日曜日
祭礼場所	挙母神社

歴史

江戸時代（1760年代）の洪水による住民の移転とともに、挙母祭りの山車も上町に移転し、挙母神社の西南区域には山車が不在となりました。昭和40年代までは上町・下町の住民がともに山車を曳いていましたが、不在の区域の有志の熱意により、平成15年（2003）に山車を建造し、挙母祭りには加わってはいませんが、挙母祭りと同日に試楽を行っています。

内容・見どころ

挙母祭りと同日の試楽（前日）には、山車の町内曳きがあります。祭当日の本楽では、挙母神社に宮入を行っています。子供、青年らによってお囃子が奏でられます。挙母祭りのような紙吹雪はまきませんが、「わっしょい、わっしょい」と声を出し、山車がゆっくりと町内を練り歩きます。

豊田市

やしろちょうはちまんぐうれいたいさい
社町八幡宮例大祭

祭礼日	10月第2土曜日・日曜日
祭礼場所	社町八幡宮

歴史

元は10月24日・25日に行われていましたが、その後10月第2土曜日・日曜日に変更されました。寺部の古い山車の一つが八草に譲られ、八草では秋の例祭ではなく、夏の祇園祭で曳き出されています。高橋町山車は、明治42年（1909）3月に碧海郡矢作町大字橋目村より金600円で購入されたものであることが文献からわかっています。昭和38年（1963）に山車が市の有形民俗文化財に指定され、昭和56年にお囃子が市の無形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

初日の試楽祭では午後6時から獅子を先頭に囃子連・氏子連により町内廻り、八幡宮にてお囃子の奉納・七度廻りが行われます。2日目の本楽祭では、午前9時から山車には囃子連・若衆、引き方には前方に綱元（30人）、後方に梶方（10人）が付き、引き町廻りを行います。午前11時頃に神社の曳き込みがあり、午後3時から曳き出し、町廻りを行い午後6時頃会所に戻ります。午前の八幡宮曳き込みと曳き出しの間に子供囃子の奉納もあります。

豊田市

ひらいはちまんぐうさいれい
平井八幡宮祭礼

祭礼日	10月第1日曜日
祭礼場所	平井八幡宮

歴史

江戸時代中頃に半田地方から山車を譲り受けてきて、五穀豊穣を祈願して平井八幡宮へ奉納するようになったと伝えられています。昭和38年（1963）に山車2輌が市の有形民俗文化財に指定され、昭和56年にお囃子が市の無形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

試楽では七度参り時に提灯に蝋燭を灯して、山車を飾り、祭囃子を披露します。本楽では、平井町から百々町に出向き、百々八幡宮の山車を迎えともに平井町内を曳き廻し、平井八幡宮へ曳き込み奉納します。黄金の稲穂が稔った田園地帯を練る農村の山車曳きです。

豊田市

きがんさい
祈願祭
【志賀神社祈願祭】

祭礼日	10月第4日曜日
祭礼場所	志賀神社

歴史

疫病退散願掛け奉納に始まり、明治時代初期以前は6月に行われていましたが、昭和40年（1965）より現在の日程に変更されました。午前中は例大祭を斎行、午後4時より町内廻りを行い、午後5時より神社に奉納し、祈願して下山します。昭和38年に山車が市の有形民俗文化財に指定され、昭和56年にお囃子が市の無形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

志賀神社は標高107ｍの山頂に社があり、標高差35ｍ、約20度の急な坂を登り山車を神社に奉納します。境内では、山車を7廻り半（現在は3廻り半）廻して奉納し、疫病などから守るための祈願をします。夕方5時から神社に奉納するために山車に取り付けた提灯に灯りを灯します。夜の参道を通る様は幻想的です。雨天時でも山車は山頂の志賀神社へ奉納されるため、過去一度も中止されたことはありません。

豊田市

つしまじんじゃてんのうまつり
津嶋神社天王祭
【お天王さんのお祭り】

祭礼日	7月15日
祭礼場所	津嶋神社

歴史

言い伝えでは津嶋神社の大祭は明治時代以前から行われており、通称は「お天王さんのお祭り」ということで通っていました。当初は祭囃子の太鼓の音が祭の主役であり、昔はリヤカーに太鼓を積んで叩いたそうです。今の山車は昭和11年（1936）に高橋町の寺部から八草に来ました。以前は国道に出て曳いたこともありましたが、今は神社の正面の場所で山車を組み立てて提灯を吊るし、太鼓の音を楽しんでいます。

内容・見どころ

祭当日の朝、津嶋神社まで御札を受け取りにいき、その後御札を八草町の津嶋神社の社塔へ納め、注連縄を張りお供えをします。昼頃より山車を組み立て、100個以上の提灯を三段に飾ります。夕方、津嶋神社へのお参りが終わると山車の全ての提灯に火を灯し、祭囃子の太鼓の音が響き渡ります。山車の中では子供が太鼓を叩き、続いて外で大人の太鼓の響きが共演します。引き上げ提灯、吊り提灯や打ち囃しの山車（屋台）が特徴です。

豊田市

あすけはちまんぐうれいさい
足助八幡宮例祭【足助祭り】

祭礼日	10月第2土曜日・日曜日
祭礼場所	足助八幡宮

歴史

足助八幡宮の例祭は試楽祭と本楽祭からなり「足助祭り」とも称されます。祭が現在の形となったのは江戸時代後期頃と言われており、この祭は足助八幡宮が古くから足助総郷の総社として地域の人々の篤い崇敬を集めていた伝統を今に伝えています。足助八幡宮の本殿は国の重要文化財に指定されており、足助の町並みは伝統的建造物群保存地区に選定され、壮大な歴史を感じることができます。平成9年（1997）に山車4輌が市の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

2日間で、山車4輌の町内曳き廻し、神輿渡御、山車の宮入、火縄銃、棒の手、梵天投げが行われます。梵天投げの後は、山車に提灯を飾り付け、各町に戻っていきます。その様子はとても幻想的です。

豊田市

あすけはるまつり
足助春祭り

祭礼日	4月第2土曜日・日曜日
祭礼場所	足助神社

歴史

足助神社は南朝の忠臣として讃えられた足助次郎重範公を御祭神として、明治35年（1902）3月17日、現在地に建立されました。以前、祭は5月3日でしたが、これは重範公が元弘2年（1332）5月3日に京都六条河原で斬首されたという、重範公の命日によるものです。秋祭りは足助八幡宮の古い男の山車まつりですが、この祭は、足助氏を祀る足助神社の大正年間に始まった新しい女性・子供の山車まつりです。

内容・見どころ

祭には、親王町・田町・本町・新町・西町・宮町・松栄町から花車が1輌ずつ出されます。試楽祭では花車7輌の町内曳き廻し、本楽祭では宮入、帰り車が行われます。曳き廻しでは各町の花車が各町の組長宅へお囃子を奉納し、宮入では花車7輌が列になり順に各町の自治会長宅へお囃子を奉納し、最後に足助神社に奉納します。山車は造花で飾った囃子屋台で、女子中学生が乗り込んでお囃子を奏し、花笠を飾った幼児が父母とともに綱を曳きます。

豊田市

きりやまのまつり
霧山の祭り
【祇園祭り、お天王さん祭り】

祭礼日	7月下旬（旧暦6月15日前後）
祭礼場所	白山神社

歴史

白山神社は長久元年（1040）創建と伝えられています。山麓にある拝殿の右に津島神社が祀られ、向かって左には神明社が祀られ、境内には山車の収蔵庫もあります。津島神社はかつては山の山頂に祀られていましたが、時期は不明ですが白山神社の境内に移転されたといいます。白山神社の祭は10月に行われますが、山車が曳き廻されるのは、7月下旬の土曜日に行われる「祇園祭り」または「お天王さん祭り」と呼ばれる津島神社の祭です。

内容・見どころ

行事の次第は、お庭草（境内清掃、山車の飾り付け等）、式典、直会、山車の曳き廻し、山車の曳き戻し（帰り山車）・提灯点灯、白山神社境内納車となります。明治20年代に豊田市寺部地区から購入した山車を曳き廻します。神事の後、山車の一層目に浴衣姿の若衆たちが乗りお囃子を奏し、二層目には子供たちが乗ります。二層目からは大きな白い梵天が前方に伸ばされ、夕方になると山車が境内を出発し、町内を曳行します。

豊田市

くまのじんじゃあきのたいさい
熊野神社秋の大祭

祭礼日	10月第3土曜日・日曜日
祭礼場所	熊野神社

歴史

以前の山車の由来については不明ですが、現在の山車は、足助五反田の山車を参考にして、昭和31年（1956）頃に足助明川の大工が造ったとされています。熊野神社の境内には、農村舞台と山車蔵（茅葺屋根）があり、山車は組んだまま保管されています。

内容・見どころ

熊野神社秋の大祭は、「わっしょい、わっしょい」と活気のある掛け声とともに、以前は町中をゆっくりと山車を曳いていました。明治34年（1901）に建造された山車は傷みがあり、現在、山車の運行が難しい状況です。熊野神社に到着すると、神輿の打囃子が奉納されます。

豊田市

あきのれいたいさい
秋の例大祭【新嘗祭】

祭礼日	10月第1土曜日・日曜日
祭礼場所	連谷神明神社

歴史

以前の山車の由来については不明ですが、現在の山車は、昭和25年（1950）、26年頃に足助連谷の大工によって造られたと伝えられています。部材は、神社境内にあったヒノキを使ったと言われています。

内容・見どころ

前日土曜日が夜祭、翌日曜日が本祭典です。提灯や幕で飾り付けた1輌の山車が曳かれます。鳥居から拝殿までの宮入りや打囃子を奏でながら急坂を登るところが見どころです。

豊田市

はちまんじんじゃあきのさいてん
八幡神社秋の祭典

祭礼日	9月第4土曜日・日曜日
祭礼場所	八幡神社

歴史

以前の山車の由来については不明ですが、現在の山車は3代目で、足助連谷の山車を参考にして、昭和30年代初めに足助明川の大工が造ったとされています。

内容・見どころ

大太鼓と小ばちを打ち鳴らし、笛を吹いて山車を曳き廻します。山車の宮入りや、打囃子と棒の手の奉納があります。

安城市

はちまんしゃたいさい
八幡社大祭
【春の大祭】

祭礼日	4月第2日曜日
祭礼場所	八幡社

歴史

南明治地区の氏神である八幡社の周辺は明治時代以降になってから新しく開けた地区で、かつて映画館や料亭などもあり、安城市内では最もにぎやかな場所でした。山車は4月の大祭で曳き廻されていましたが、現在は巡行せず、展示のみされます。また、山車は3輌ありましたが、令和2年（2020）に栄町の山車1輌が豊田市上郷町に引き取られました。山車3輌はいずれも昭和30年代以降に造られたものです。

内容・見どころ

御幸町では、芸子から笛・太鼓・三味線の指導を受けていました。祭礼時には山車の中でお囃子を行い、前部の舞台では芸子が踊っていました。末広町の山車のお囃子は「六法」「ドンタク」「竹雀」の3曲がありました。また、町内から出て行くときと帰るときでは異なる曲を行っていました。お囃子で使用していた楽器は太鼓・締太鼓・三味線・笛・小鼓・大鼓（大皮）などがありました。

西尾市

にしおぎおんまつり
西尾祇園祭
【天王祭り】

祭礼日	7月中旬の土曜日・日曜日
祭礼場所	伊文神社

歴史

伊文神社は西尾城下の産土神であり、祇園祭は夏の大祭です。天正年中の田中吉政以降、代々の城主の庇護のもとで次第に盛んとなりました。土井氏の城主時代（1731～1749）には、城下の伊文神社から城内の御剱八幡宮へ神輿の渡御が行われるようになりました。昭和62年（1987）に中町の大屋形、平成20年（2008）に神輿と御旅所が市の有形民俗文化財に指定されました。また、昭和32年に大名行列、昭和59年に天王町の神楽獅子が市の無形民俗文化財に指定されています。

内容・見どころ

神輿の渡御に合わせ、西尾城下の表六ヶ町が、神楽獅子や大名行列など趣向を凝らした練り物を奉納します。その一つとして、中町から大屋形と呼ばれる山車が曳き出されます。この大屋形は城門から城内へ入れるように、2階の踊り場が滑車で上げ下げができるようになっているのが特徴です。現在は、三味線奏者らが乗車しています。

知立市

ちりゅうじんじゃれいさい
知立神社例祭【知立まつり】

祭礼日	5月2日・3日
祭礼場所	知立神社

歴史

知立神社の祭礼で山車が奉納されたのは承応2年（1653）からと伝えられ、山車文楽とからくりも江戸時代から行われています。平成2年（1990）に「知立の山車文楽とからくり」として国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年には「山・鉾・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。また、からくり人形の一部は昭和42年（1967）に県の有形民俗文化財に指定されており、山車5輌なども市の文化財に指定されています。

内容・見どころ

1年おきに本祭と間祭が交互に行われ、本祭では山車5輌の曳き廻しや、山車文楽とからくりが奉納されます。山車文楽は三人遣いの人形浄瑠璃芝居で、山町、中新町、本町、宝町の各町が上演します。また、山車からくりは西町が上演し、からくり人形を使って浄瑠璃芝居を演じる大変珍しいものです。山車の上でこうした二系統の人形芝居が演じられるのは知立だけです。間祭では、花飾りが付けられた花車5輌が曳き廻されます。

みよし市

みよしはちまんしゃあきのたいさい
三好八幡社秋の大祭

祭礼日	10月第3土曜日・日曜日
祭礼場所	三好八幡社

歴史

五穀豊穣を願い行われます。山車は安政5年（1858）頃から新屋天王神社の夏の大祭に奉納していましたが、慶応元年（1865）の新屋天王祭りの際に山車が転覆し、ちょうど明治御一新に及んだので一時終止符を打ちました。それ以来、三好八幡社の例祭の余興として山車を出すようになりました。昭和56年（1981）に、山車2輌が市の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

午前中は子供によるお囃子とともに若者で構成される若連衆が中心となって山車を曳き、午後及び夜間は大人連によるお囃子と山車の曳き廻しが行われます。山車は2輌あり、夜になると半円形に飾られた提灯に火が入れられます。

みよし市

てんのうじんじゃあきのれいたいさい
天王神社秋の例大祭

祭礼日	10月第1日曜日
祭礼場所	天王神社

歴史

五穀豊穣を願い行われます。現在の山車は、平成16年（2004）に焼失した山車を復元したもので、平成26年に完成しました。焼失した山車は、明治25年（1892）頃に建造されました。

内容・見どころ

山車の曳き廻しやお囃子の演奏などが行われます。山車は1輌あり、夜になると半円形に飾られた提灯に火が入れられます。また、祭礼日の前日には子供連による囃子台が区内を練り歩き、祭を盛り上げます。